

## 癌化学療法名 大腸癌 セツキシマブ(毎週)+イリノテカン療法

実施部署	外来・入院	1クール日数	6週間	承認済 2011.4.12
番号	抗がん剤名・略称	1日投与量	投与方法	投与日
1	セツキシマブ: <b>アービタックス</b>	初回: 400mg/m <sup>2</sup>	div.(点滴静注)	D1(毎週)
		2回目以降: 250mg/m <sup>2</sup>		D8.15.22.29.36(毎週)
2	CPT-11(イリノテカン): <b>カンプト</b>	150mg/m <sup>2</sup>	div.(点滴静注)	day1.15
コメント	<p>・アービタックスは、KRAS遺伝子野生型に適応</p> <p>・ヒト/マウスキメラ型モノクローナル抗体で、インフュージョンリアクション予防のために抗ヒスタミン薬やステロイドをアービタックス投与30~60分前に投与が望ましい</p> <p>・アービタックスの希釈液は生理食塩液を使用し、初回は2時間で、2回目以降は1時間で投与</p> <p>・アービタックス投与後は生食でフラッシュし、インフュージョンリアクションに注意しながら1時間~30分は経過観察してから次の投与を行う</p> <p>・減量基準・・・CPT-11; 投与当日の白血球数3000/mm<sup>3</sup>未満又は血小板数10万/mm<sup>3</sup>未満 セツキシマブ; Grade3の皮膚症状が現れた場合</p>			

投与日	薬剤名	ルート	時間
day1.8.15.2 2.29.36	* レスタミン錠10mg 5錠服用		
	① グラニセトロン1mg/バッグ + デキサート	div.	30分
	② <b>アービタックス400mg/m<sup>2</sup></b> + 生食500mL (初回)	div.	2時間
	② <b>アービタックス250mg/m<sup>2</sup></b> + 生食250mL (2回目以降)	div.	1時間
	* アービタックス投与後、生食20mLでラインをフラッシュ		30分~ 1時間
	* <b>初回は1時間、2回目以降は30分経過観察</b>		
day1.15.	③ <b>カンプト150mg/m<sup>2</sup></b> + 生食 500mL	div.	2時間
	④ 生食20mL		フラッシュ

### <皮膚障害対策>

アービタックスは、高頻度(約80%)に皮膚障害が発現します。保湿剤やステロイド剤(外用)、抗生物質(内服)などの予防的投与が皮膚障害の発現頻度の低下に繋がることが報告されています。

#### ① 処方開始時(症状が出る前に処方)・・・14日分を目安

(顔) キンダベート軟膏 5g 2本 1日2回皮疹部に薄く塗布 → **症状が出たときに塗布**

(体) マイザー軟膏 5g 2本 1日2回皮疹部に塗布 → **症状が出たときに塗布**

ヒルドイドソフト軟膏0.3% 25g 2本 皮膚乾燥部に適宜塗布 → **毎日塗布する(症状発現・悪化の予防)**

#### ② 皮疹増悪時(中等度)

上記①の処方にプラスで・・・

ミノマイシン錠50mg 2錠 1日1回 14日分

アレグラ錠60mg 2錠 1日2回 14日分

#### ③ 皮疹増悪時(重症の追加処方)

中等度②の処方に加えて・・・

プレドニゾロン錠5mg 2錠 1日1回朝食後 14日分

**\* ②、③の症状が発現した時は、皮膚科受診を勧めてください。**